

第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

東広島市立御菌宇小学校 教諭 大山 紀子

- 1 日 時 平成26年11月25日～平成26年12月19日
- 2 学 年 第5学年（1学級26人）
- 3 単 元 名 みそのうトライアングル「学校ごっこをしよう」
- 4 単元について

（1）単元観

「みそのうトライアングル」とは、校区にある御菌宇幼稚園とみそのうこばとの森保育園と本校との保幼小連携のことである。平成20年より、文部科学省幼児教育調査研究事業を受け、御菌宇幼稚園、御菌宇保育所（現在のみそのうこばとの森保育園）、御菌宇小学校が協同で研究組織を立ち上げ、名称を「みそのうトライアングル」として取組を始めた。この活動に継続して取り組む中で、年長児にとっては小学校への滑らかな接続、小学生にとっては自己肯定感や自己有用感の高まりが見られ、互惠性のある連携が現在まで続いている。

本単元「学校ごっこをしよう」は、年長児を小学校に招待して、小学校疑似体験を行うものである。その計画の企画・立案・実施の一連の活動の中で、探究的な学習を行うことで、より自分の考えが明確なものとなってくる。また、課題を設定する力や課題を解決する力とともに、自らの考えを交流しながら協同して学んでいく力を高めていくことができる。児童は、自ら企画した「学校ごっこをしよう」という活動に年長児を招待し、交流することを通して、自己肯定感や自己有用感を高め、友達とかかわり合いながら学ぶ能力や、異年齢の幼児とかかわる能力も高めることができる単元である。

（2）児童観

「基礎的・汎用的能力」について児童実態を把握するため「小学校キャリア教育の手引き」の「キャリア教育アンケートの一例」を使用し、①から⑫の質問項目について4段階評定尺度法で調査を行った。分析の結果、項目⑫「行動・改善」に係る質問項目の肯定的回答は所属校では12%であり、他項目と比べて最も低い値であった。項目⑩「学ぶこと・働くことの意義や役割の理解」に係る質問項目で「いつもしている」と答えた児童の割合は24%であり、他項目と比較して2番目に低い値であった。この結果から所属校においては、他の領域と比べて、児童の「キャリアプランニング能力」が全体的に低い値であることがいえる。

このような実態から、児童に育成したい能力や態度は、学ぶことや働くことの意義を理解したり、主体的な行動や改善をしたりする力である。

（3）指導観

指導に当たっては、他教科等の学習内容とのつながりをもたせながら横断的・総合的な活動を進めていく。「課題設定」の過程では、活動の対象となる年長児をイメージして計画できるように自分たちが年長児だった時の「みそのうトライアングル」の様子を画像等で想起させて振り返り、年長児の立場をよりつかませる。また、昨年度「学校ごっこ」を体験した学年や、担当教師から活動の様子について話を聞くことにより、具体的な活動の流れをつかませ、自ら課題意識をもつことができるようにさせる。この過程を通して「年長児の笑顔のために」というキーワードを様々な場面で投げかけ、見通しをもって活動することができるようにさせる。

「情報収集」の過程では、幼稚園の先生に幼児の生活の実際について話を聞いたり、質問したりする機会を設け、目的を明確にした調査活動を仕組むようにする。「整理・分析」の過程では、収集した情報を基に整理したり分析したりして、より良い活動のあり方について思考していく。実際の活動のリハーサルを行い自己評価・相互評価をし、改善していく。「まとめ・表現」の過程では、相手意識・目的

意識を明確にして「学校ごっこをしよう」という活動に友達と共に協同的に取り組んでいく。また教科等で身につけた知識や技能を発揮することで、今までの学びとのつながりを意識させていくことができ、学ぶ意義を理解させていくことができる。活動後には活動を振り返り、活動を通して学習したことをもとに新たな目標と行動について考え、課題の設定を行う。

この探究の過程に沿って学習過程を仕組み、過程を通して友達と協同して課題を解決しようとする態度を育てる。

5 単元で育てようとする資質や能力及び態度

【学習方法に関すること】

- ア 問題状況の中から課題を発見し、設定する。
- イ 相手や目的に応じて、分かりやすく説明したり表現したりする。

【自分自身に関すること】

- ウ 目標を設定し、課題の解決に向けて行動する。
- エ 自己の将来を考え、夢や希望をもつ。

【他者や社会とのかかわりに関すること】

- オ 異なる意見や他者の意見を受け入れる。
- カ 他者と協同して課題を解決する。

6 単元の目標

年長児との交流活動を通して、相手意識や目的意識を明確にもって活動することの大切さを知り、高学年としての自覚と責任をもって行動しようとする。

7 評価規準

評価の観点	学習方法		自分自身	他者や社会とのかかわり
	課題設定	表現	自己理解	他者理解
単元の評価規準	① 「学校ごっこ」にむけて学級の目標や活動内容等について話し合っている。(ア)	① 年長児の立場に立って説明の仕方を工夫したり、話し方などに気を付けたりして表現している。(イ)	① 目標に向かって自分のすべき役割が分かり、責任をもって仕事をしている。(ウ) ② 活動を通して学んだことを生かし、これからの生活における展望と行動について考えている。(エ)	① 自分の考えを伝えたり、他者の異なる意見を受け止めたりしている。(オ) ② 課題の解決に向けて、友だちと協同して解決しようとしている。(カ)

8 単元計画(全 14 時間)

課=課題設定, 表現=表現, 自=自己理解, 他=他者理解

小単元名(時数)	主な学習内容	評価規準及び評価方法	
1 「学校ごっこをしよう」の計画を立てよう。(3)	○ 「学校ごっこ」の概要について知る。 ○ 幼稚園・保育園の幼児との交流会について見通しをもち、計画を立てる。 課題の設定	課①	・観察による評価(行動観察)
2 「学校ごっこ」の準備をしよう。(8)	○ グループごとに、時間割や内容について考える。 ○ 各教科の担当を決め、内容について話し合う。 ○ 授業に必要なものを友だちと協力して作成したり、練習をしたりする。 ○ リハーサルを行い、自己評価・相互評価を行い、改善する。 情報の収集 整理・分析	他① 他② 自①	・観察による評価(行動観察) ・制作物による評価(学習シート、振り返りカード)
3 「学校ごっこ」をしよう。(2)	○ 年長児との「学校ごっこ」を行う。 まとめ・表現	表①	・観察による評価(行動観察)
4 活動を振り返り、今後の生活に展望をもとう。(1)	○ 幼稚園・保育園の先生のコメントなどを紹介し合い、自己評価・相互評価をしていく。 ○ 活動を振り返り、活動を通して学んだことを生かし、今後の展望をもつ。 課題の設定	自②	・制作物による評価(学習シート、振り返りカード)

9 本時の展開

【第 12・13 時】

(1) 本時の目標

グループで協力して、年長児の立場を考えて小学校のことを教えたり、楽しく交流したりすることができる。

(2) 学習展開 (12/14, 13/14)

	学習活動	◇指導上の留意点 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て 太字 文脈学習の視点を取り入れた活動 【 】 文脈学習の視点	評価規準 (評価方法)
導入	1 グループごとに整列して年長児を迎える。(体育館)	◇明るい笑顔と雰囲気、年長児を迎える。 ◇相手意識をもって、安全に気を付けて行動することを確認する。	
	2 はじめの会をする。	本時のめあて 年長児さんが笑顔になる「学校ごっこ」をしよう。 はじめの会 ① はじめの言葉 ・ 5 年生代表あいさつ ・ 年長児あいさつ ② あいさつ (小学校校長) ③ 歌の交流(全員) ④ 「学校ごっこ」の説明(5 年生)	

展 開	3 グループに分かれて「学校ごっこ」をする。	◇移動の際は、「1列歩行」「黙って歩く」ことを実践させ、年長児に意識づけるようにする。 ◇グループで行動することを原則とし、児童役：年長児、先生役：5年生児童となって「小学校での生活」の一部を疑似体験させる。 ◇1コマ20分間授業を3コマ行う。 ◇3コマのうち、1コマは「学級活動」とし、東広島スタンダードを基に、生活についての授業を取り入れさせる。 ◇年長児の立場に立って具体的に例を提示しながら分かりやすく説明させるようにする。 ◇相手の立場に立った話し方(話すスピード、間の取り方、表情等)を意識させる。 【過去の学習や教科間のつながり】 第5学年 国語科 「ふさわしい方法を選んで発表しよう」 ・内容や目的に合わせて、効果的な発表方法を工夫する。 第5学年 図画工作科 「楽しく美しく伝えよう」 ・伝えたいことの内容に合わせ、表現方法を工夫して掲示物をつくる。 第4学年 国語科 「案内係になろう」 ・相手が理解しているか反応を確かめながら、言葉の強調や間の取り方などに気をつけて話すことができる。 第1学年の国語科・算数科・生活科・音楽科等で学習してきたこと。 ◇うまくいかない時やトラブルが起こった時には、グループで相談させたり協力させたりして解決に向けて協同して取り組ませる。 ◆友だちと仕事を分担したり、一緒に働きかける場を設定したりして、活動に参加させる。 ◇先生方と随時連絡を取り合い、活動の様子を把握するとともに幼稚園、保育園の先生方も各グループをまわり、随時、支援していただく。	表現① ・年長児の立場に立って説明の仕方を工夫したり、話し方などに気を付けたりして表現している。 (行動観察)
ま と め	4 終わりの会をする。 5 あたたかい余韻をもたせて年長児を送る。	終わりの会 ～ふりかえりタイム～ ① 年長児・児童の感想 ② 先生からの感想 (保育園・小学校) ③ おわりの言葉 ・年長児あいさつ ・5年生あいさつ ④ あいさつ (みそのうこばとの森保育園長) ◇年長児が交流の楽しさを感じ、次回の交流に期待をもって終わることができるように、年長児を優しく見送る。	